

2007年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、ヨーロッパでブロッキングが度々発達し、ここから射出された波束に対応してヨーロッパの正偏差、ロシア西部の負偏差、中央シベリアの正偏差の強まりが顕著だった。中国大陸付近から北太平洋にかけての中緯度帯では帯状の負偏差が明瞭である一方、その北の東シベリアとその南の30°N以南では正偏差が明瞭だった。

熱帯の対流活動は、西部太平洋で対流活発で、中部から東部太平洋は赤道域で不活発となった。ITCZ（北太平洋熱帯収束帯）では平年より北寄りの位置で活発だった。インド洋赤道域では全体的に対流不活発だったが、ベンガル湾と南インド洋の10°S以南では活発となった。ギニア湾とその沿岸地域では対流活発となった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、西部太平洋で対流活発、中部から東部太平洋で不活発だったことに対応して、西部から中部太平洋は概ね高気圧性循

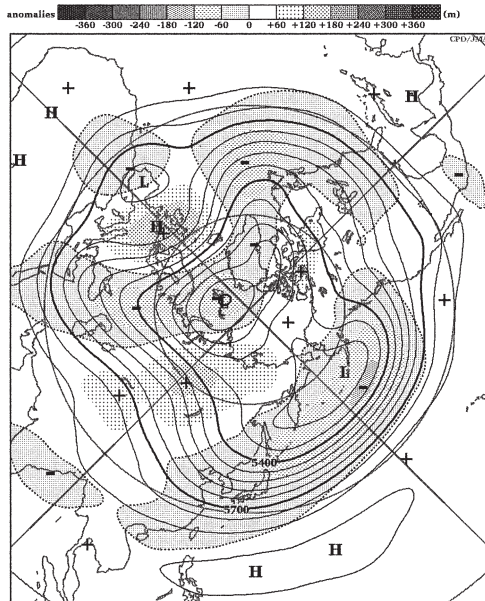
環偏差に覆われた。そのため、下層の赤道東西風指数で見ると、西部太平洋、中部太平洋では、先月に続き東風偏差となった。一方、東部太平洋では西風偏差であった。インド洋では、赤道ロスビー波に伴う低気圧性循環の対がたびたび見られた。

SOI（南方振動指数）は+0.1（暫定値）となった。

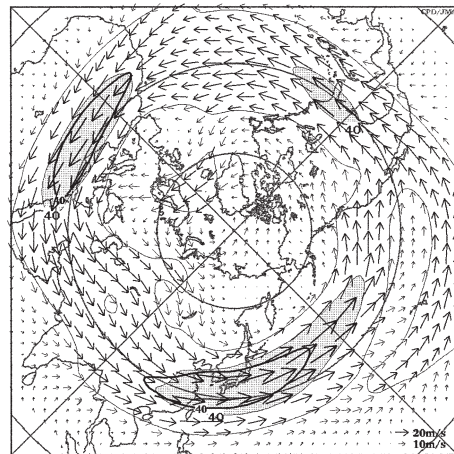
世界の天候

- ① シベリアからパキスタンの高温
- ② ヨーロッパの高温・少雨
- ③ 地中海西部の多雨
- ④ トルコの低温
- ⑤ イランからイスラエル付近の多雨
- ⑥ ニジェール周辺の高温
- ⑦ 中米の高温
- ⑧ ブラジル南部の高温
- ⑨ オーストラリア東部沿岸部の少雨

（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

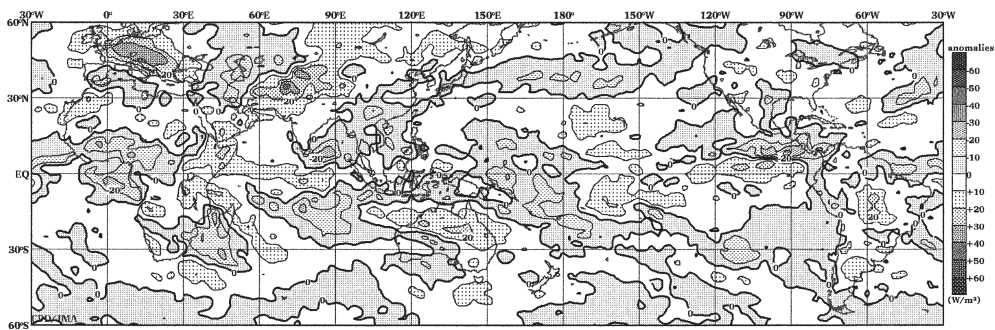


2007年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。

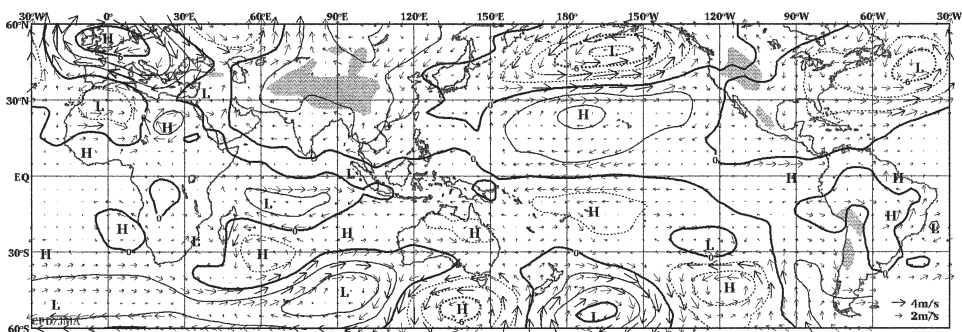


2007年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

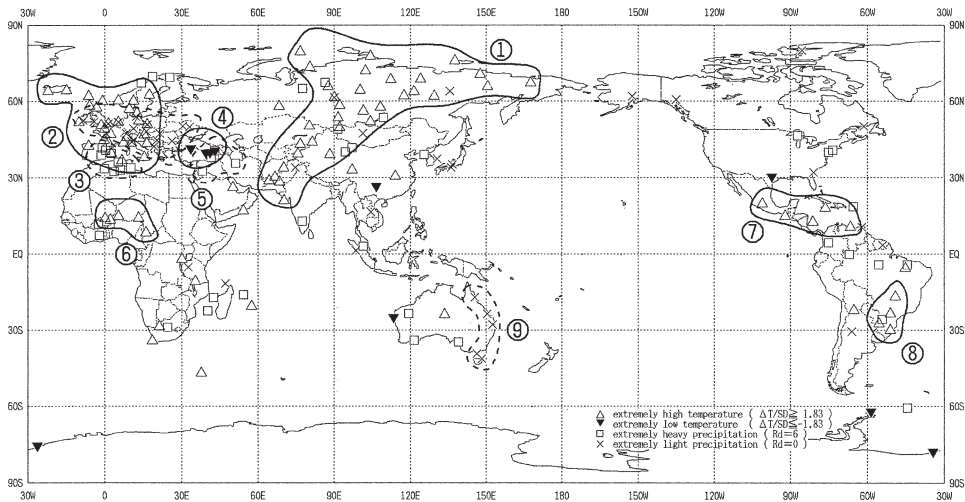
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA、年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。